

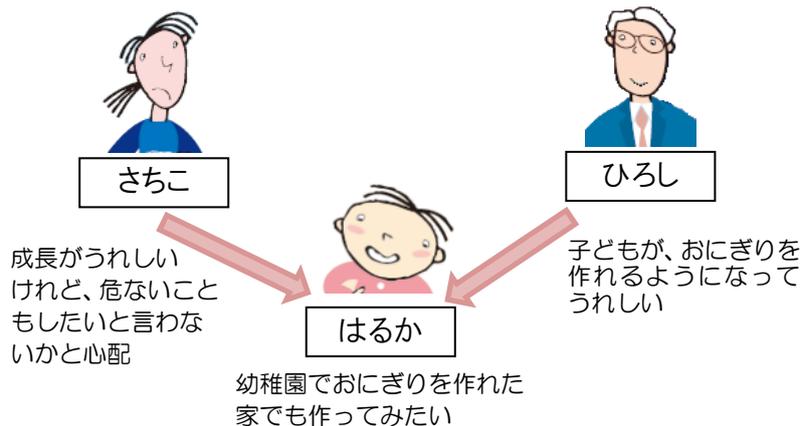
# 指導事例

## 2-9 「自信をもつ」

幼稚園でおにぎり作りのイベントを経験し、家でも作りたがる子どもと、したいことがエスカレートして危ないことかもしれないと言いきかないかと心配する母親のエピソードを通じて、子どもが自信を持つための関わり方について考えます。

### エピソード

- 5歳のはるか、幼稚園でおにぎり作りのイベントを経験し、家でも自信满满で作りたがる。
- 母親のさちこは、子どもがおにぎりを作れたことはうれしいものの、したいことがエスカレートしていくのではないかと心配になる。



### 活動の流れ (90分)

時間	活動内容
20分	<b>◆ 導入 ( P2 )</b> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ あいさつ・自己紹介</li><li>▶ 参加型学習のルール確認</li><li>▶ アイスブレイキング・グループ分け</li><li>▶ エピソードの読み合わせ</li></ul>
60分	<b>◆ グループワーク ( P3~6 )</b> <ol style="list-style-type: none"><li>① 食事づくりや家の手伝いなどで、子どもが何かしていることはありますか？</li><li>② さちこさんのひとりごとについて、どう思いますか？</li><li>③ 子どもから「〇〇がしたい！」と言われたとき、どのようにしていますか？</li><li>④ 子どもが自信を持つようになるには、どうしたらよいでしょうか。アイデアや工夫などを、話しあってみましょう。</li></ol>
10分	<b>◆ ふりかえり ( P7 )</b> <p>今日の話しあいをふりかえりましょう。</p>

# 導入



## あいさつ 自己紹介

### 進行役の自己紹介をする

「みなさん、こんにちは。」  
「これから、『子育て』について、みんなで話しましょう。」  
「わたしは、……………」

## ルール 確認

### 参加体験型学習に必要な4つのルールについて説明する

「これからの時間の中で、守ってほしいルールが4つあります。」

「参加」：講座に参加するために、できるだけ自分の考えを話すようにする。話したくないことはパスもできる。

「尊重」：人が話している時はしっかり聞く。自分の考えと違っていても話をさえぎらず最後まで聞く。

「守秘」：この場で聞いたことはこの場限り。他でもらさない。ワークが進むと自分の生い立ちや家庭状況を話す人もいる。安心して話せるように、この場での話は絶対に外にもらさないことを約束する。

「時間」：一人あたりの発言時間を守る。  
参加者全員が話せるように、制限時間内に話を納めるよう気を付ける。

## アイス ブレイキング

### アイスブレイキングを行う

「アイスブレイキングとして〇〇をしましょう。」

- ・参加者の心をほぐすワーク・ミニゲームなどを行う。
- ・緊張や硬い雰囲気を柔らかくしたり、意見を出しやすくしたりする。

## グループ 分け

### グループをつくる

「5～6人のグループをつくりましょう。」

- ・アイスブレイキングをしながら、グループ分けをする方法もある。（ゲームをしながら並びなおし、端からグループ分けする方法など）
- ・父親や母親、祖父母など、さまざまな人がグループに入るようにすると、グループワークで多様な意見が出やすくなる。
- ・机やイスを動かしてグループをつくる。
- ・一つのグループにできるだけ一人のファシリテーターが入る。

## エピソード を読む

### エピソードを読む、登場人物の説明など

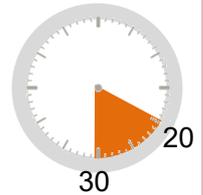
「それでは今日の資料を配ります。はじめにエピソードを読んでみましょう。」

「役割分担してこのエピソードを読みあげてみましょう。」

- ・まず、各自で黙読をしてから読み合わせるのもよい。
- ・朗読はグループごとでもよいし、進行役が全体の場で読み合わせても構わない。

## 1

## 食事づくりや家の手伝いなどで、子どもが何かしていることはありますか？



リーダー

食事づくりや家の手伝いなどで、子どもが何かしていることはありますか？手伝いや、子どもの役割としている仕事など、子どもがしている家での用事があれば紹介してください。

## 予想される意見


 お手伝い  
 などを紹介  
 する方々
**洗濯物を取り込んでいる**

「洗濯物を取り込んだり、たたんだりしている。干すのはやらせていない。」

**お姉ちゃんが、妹の世話をしてくれる。**

「妹のことをすごくかわいがって、おむつを取ってきたり、おもちゃを持ってきたりしてくれている。」

**お手伝いはさせていないけれど、自分のことを自分でさせている**

「お手伝いはさせていないけれど、自分のことをさせている。靴をそろえたり、使ったおもちゃを片付けたり。できない時もあるけれど……」

**決まった役割はないけれど、時々用事を頼んでいる**

「いつもこれをしてもらうというような、決まった役割はない。でも、新聞を取ってもらったり、お箸や食器を並べてもらったりと、時々用事を頼んでいる。」

**特に、子どもがしていることはない**

「お手伝いや家の用事は、させていない。自分でする方が早いよね。」

**楽しめることはしたがるけれど、片付けが大変だから、やらせていない**

「お風呂洗いなどの水を使う仕事は水遊びみたいで楽しそう。卵などを混ぜるのも楽しいみたい。子どもは好きだけど、片付けが大変だから、ほとんどやらせていないな。」

「自分の使った食器を、台所の流し台におくことは、させたいけれど……」

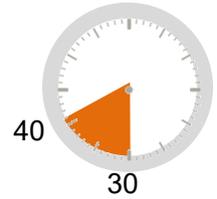

 お手伝いを  
 させていない  
 という方々


## 話しあいのポイント

1. 話しあいの導入として、参加者それぞれの家庭での、お手伝いなどの様子を聞きます。あまり意見が出ないようなら、エピソードをヒントにしながら、「食事づくりのお手伝いをしていますか。」「片付けはどうですか？」など、聞くといいでしょう。
2. 子どもの発達段階や考え方など、様々な家庭の状況があります。「〇〇をさせている」「手伝いをさせていない。」など、どの意見も否定せずに受け止めながら、意見を出し合えるようにしましょう。
3. 意見に偏りがある場合は、違った意見を紹介することで、話しあいが深まります。

2

さちこさんのひとりごとについて、どう思いますか？



リーダー

さちこさんのひとりごとについて、どう思いますか？  
 さちこさんは、お手伝い自体はうれしいけれど、包丁は不安なようです。でも、片付けはさせたいようです。同じように思うことはありますか？  
 (させたくないことや、させたいことなどは何ですか？)

予想される意見



よくある話だと思った

「うちでもよくある。『包丁を使いたい』と言っている。でも、手を切らないかと心配で、どうしようかと迷うよね。いつからさせたらいいのかな？」

さちこさんの  
 気持ちが  
 わかる  
 という方々

私も、片付けはさせたい

「自分が使ったものを片付けるのは、習慣づけたいけれど、いつもはできていないな。」

やってもらいたい時とやってほしくない時がある

「危ないことはやらせたくないし、忙しい時もさせたくない。でも、お手伝いはしてほしいと思う。簡単で、自分でできることはしてほしい。」

やらせていないから、今のところ心配していない

「今のところ、家の用事は大人がやっているから、さちこさんのような心配はないけれど、何かさせた方がいいのかな。」

子どもの思いを尊重してやらせているつもり

「子どもがしたい気持ちを大事にしたいと思っている。『包丁を使いたい』と言ったら、やり方を教えようと思う。」



さちこさんの  
 ようには  
 思っていな  
 いという  
 方々

弟はしてくれるけれど、兄は大きくなってからしてくれない、させるのが大変だから、あきらめている

「弟は、喜んでお手伝いをしてくれるけれど、兄は大きくなってからしなくなった。やらそうと思っても、説得するのが大変だからあきらめている。」

話しあいのポイント

1. グループワーク②では、さちこさんのひとりごと（エピソードの内容）に対しての意見を聞き、次のグループワーク③では、参加者自身の子育てについての意見を聞きます。しかし、②について話しているうちに、内容が発展して、③（参加者自身の子育て）についての話になる場合もあるでしょう。その時は、参加者の意向を尊重して、②と③の内容を併せて話していただくといいでしょう。

3

子どもから「〇〇がしたい!」と言われたとき、どのようにしていますか?



リーダー

子どもから、「〇〇したい」と言われたとき、どのようにされていますか。

お手伝い以外のことも含めて、子どもが何かしたいと言うことはありますか。そんな時は、どのようにしているか、お話しください。



予想される意見

子どもがしていいことを決めている

「子どもがすると危ないこともあるので、して良いことと悪いことを決めている。」

時間がゆっくりにある時に、子どもにさせている

「子どもが家の用事をする方が、大人がするより時間がかかってしまう。でも、自分に時間がある日には、『やっていいよ』と言っている。その時は、後片付けが大変なことも覚悟している。」



やらせるといふ方々 (条件付き含む)

子どもの希望どおりににはできなけれど、できればさせてあげたい

「子どもが『したい』と言ったことは、できればさせてあげたいけれど、何でもできるわけではないので、そのたびに迷ってしまう。危ないことや忙しい時など『ダメ』と言うけれど、それが多いと、子どもがやる気をなくすんじゃないかと心配にもなる。」

子どもにさせるつもりでも、ついつい、親がやりすぎてしまう

「子どもが失敗して自信をなくすのは嫌だから、親が準備したり、おぜん立てしたりしている。ついつい、やりすぎているかもしれない。」

「あとでね」と言っている

「つい、『あとでね』と言ってしまふ。結局やらせないことになっているなあ。」



やらせないという方々

何でもさせるわけにはいかない

「子どものしたいようにはいかないこともあると、学んでもらいたい。」

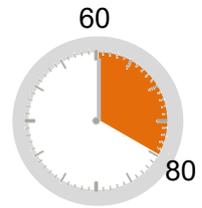


話しあいのポイント

1. 「様々な経験をさせるため」など、子どもがしたいことをするほうがいいと思いつつも、忙しさなどから、十分にできないと悩む参加者がいるかもしれません。また、「ダメと言いつつ、子どもがやる気をなくすかもしれない」「失敗すると自信をなくすかもしれない」など、参加者それぞれの悩みが出されるかもしれません。そんな時は、まずそれぞれの思いを聞き、共感したうえで、「みなさんはどうしていますか?」と質問を追加し、参考となる意見を引き出すといいでしょう。
2. グループワーク②の中で、参加者自身の子育てについても話した場合 (p.4 話しあいのポイント参照) は、「他にも、子どもから『したい』と言ってきたことはどんなことですか? その時どうしましたか?」など、内容を深めるための質問をするといいでしょう。

## 4

子どもが自信を持つようになるには、どうしたらよいのでしょうか？  
アイデアや工夫などを、話しあってみましょう。



リーダー

子どもが自信を持つようになるには、どうしたらよいのでしょうか？  
アイデアや工夫などを、話しあってみましょう。こんなことしていると、実際にしていなくても、こうした方がいいと思っていることなど、お話しください。

## 予想される意見

**ほめることが大事**

「やっぱり、ほめることが一番だと思う。ほめられることで、子どもは自信を持てるんじゃないかな。『〇〇がいいね』『△△がうれしい』と具体的にほめたい。」

「『すごい』『さすが』などの声かけもいいと思う。」

**「ありがとう」の言葉かな**

「お手伝いの後は、『ありがとう。助かった。』と言っている。子どもは喜んでいるように思う。」

**子どもの意見を認める**

「子どもがしたいと思うことを認めて、できるようにするのが大事だと思う。なかなか難しいけれど……。」

**子どもに任せる場面が必要**

「子どもにある程度任せて、見守る場面が必要だと思う。子どもなりにがんばっていることをほめるといいと思う。」

**成功体験をさせたい**

「できた！と思える体験をさせたい。子どもができるように、こちらがおぜん立てしている。」

**チャレンジすることが大事**

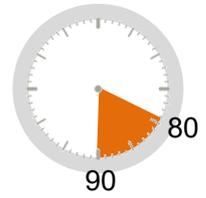
「失敗してもいいから、チャレンジする気持ちが大事だと思う。失敗しても、チャレンジする気持ちや、努力をほめるようにしている。」



## 話しあいのポイント

1. 参加者それぞれから意見を出し合えるようにするため、少し時間（2～3分程）をとって、参加者それぞれが、付箋に意見を書き、それを大きな紙などに貼りながら話しあいを進める方法（付箋を使ったワーク）があります。
2. 参加者から、「ほめる」ことについての意見が出るのが予想されます。参加者の意見を尊重しながら、「結果をほめるだけでなく、努力やチャレンジしようとする気持ちをほめるよさ」にも、内容を深められるといいでしょう。
3. 参加者自身が「自信」を持っているかどうか、また、どうすれば自信を持てるかを考えることで、子どもの自信について話しあうための参考となります。

# ふりかえり



今日の話しあいをふりかえりましょう。



リーダー

ありがとうございました。  
最後にみなさんの思いを共有しましょう。  
一人ずつ順番に、今日の感想をお願いします。



## 予想される意見

「お手伝いの工夫を聞いて良かった。」

「どこの家庭でも、みんな悩んでいることは同じだと思った。それだけで、安心した。」

「ほめて育てることが大事だと思った。焦らないでやっていきたい。」

「子どものことをあまりほめていないなと思った。でも、私自身もほめられていない。ほめることができるようにしたい。」

「子どものしたいことを認めて、自己肯定感を高めていきたい。」

「子どものしたいことに、チャレンジさせることも大事。でも、そのためには親の忍耐力が必要だな。できることからやってみよう。」



## ふりかえりのポイント

1. ふりかえりでは、ここまでの話しあいをふまえ、エピソードからはなれ自分の身近な事象として捉えて考えていきます。自分ならどう考え、何をするか、多様な考えがあることに気付いたり、自分の子育てをふりかえったりすることになります。
2. 大事だと思うことでも、全てをしようと思うと負担感が大きくなるものです。参加者それぞれの状況に合わせて、できそうなこと、まずやってみようと思うこと、できる時にしようと思うことなどを考えるといいでしょう。
3. テーマが「自信をもつ」であると確認することで、テーマに沿ったふりかえりをしやすくなります。
4. 多くの参加者とは異なる少数意見があっても、それを否定せず、全ての意見を尊重します。特定の感想に集約させるなど、無理にまとめる必要はありません。
5. 参加者が日頃の想いや考えを話すことができたか、また、気持ちがリフレッシュでき、子育てに前向きに取り組む気持ちになれたかを問いかけ、確認しましょう。

## ● ふりかえりの言葉の例



たくさん意見が出てきましたね。子育てをしていると、子どもが「〇〇したい」というような経験を、多くの方がしているようですね。忙しい日々の中で、皆さん悩みながら、毎日を過ごしていますね。共感できるお話があったのではないのでしょうか。ほかの方がしていることが、ヒントになるかもしれませんね。

## 乳幼児期に育みたい 未来に向かう力

この教材がテーマとしている「自信」は、子どもたちの「未来に向かう力」のひとつです。

「未来に向かう力」とは、自分やまわりの人たちと、折り合いをつける力のことです。例えば、目標に向かってがんばる力（忍耐力、自制心、意欲など）、気持ちをコントロールする力（自尊心、自信、ルールを守るなど）、他の人と関わる力（人の気持ちを感じる力、共感、思いやりなど）などがあげられます。「非認知能力（ひにんちのうりょく）」や「社会情動的（しゃかいじょうどうてき）スキル」とも呼ばれます。

最近の研究で、記憶力や推論する力などのIQで測れる「認知能力」だけでなく、この「未来に向かう力」が、子どもの将来にとって大事であることが明らかになっています。

## 未来に向かう力は、どうして必要なのか

乳幼児期に「未来に向かう力」が育まれると、それを土台として、小学生のころにはさらに大きく育まれていきます。それによって、難しい問題に挑戦したり、友だちと協力したり、困った時に人を頼ったりする力につながります。また、学習などがわかる力・考える力を育むことにもつながります。

さらに、「未来に向かう力」は、大人になった時に社会を生き抜く力にもつながります。

## 安全基地（信頼・安心感など）が未来に向かう力の土台になります

安全基地とは、子どもの不安をいつでも受けとめる、安心できる大人の存在です。子どもの心のよりどころのことで、物理的な場所としての基地を作るのとは異なります。

子どもが不安な時などに、体や気持ちを受けとめてもらえることで、安心感や信頼感が生まれます。これを繰り返すことで安全基地ができます。特別難しいことをするのではなく、日常の関わりの中で、育まれます。

いざという時に頼れるところ（安全基地）があることで、子どもはいろいろなことにチャレンジしようという気持ちになれます。安全基地が、子どもの「未来に向かう力」の土台となります。

## 育むために大切なことは？

0～2歳ごろには、大人が子どもの思いをくみとろうとしながら関わることで、子どもの意欲や自信、気持ちを感じる力など、未来に向かう力の芽が育まれます。

3～5歳ごろには、子どもがいろいろなことにチャレンジしたり、認めてもらったり、失敗しても受け止めてもらえたりする経験を積み重ねることで、目標に向かってがんばる力（忍耐力、自制心、意欲など）や、気持ちをコントロールする力（自尊心、自信、ルールを守るなど）が育まれます。また、気持ちを聞いたり伝えたりする関わりを通じて、人の気持ちを感じる力が育まれます。様々な関わりが、他の人への共感や思いやりにつながります。

資料：大阪府教育委員会「乳幼児期に育みたい！ 未来に向かう力」（令和2年3月）

<http://www.pref.osaka.lg.jp/chikikyoiku/kateikyousien/mirainimukautikara.html>

